

埼玉県ネイチャーポジティブ推進分科会 交流会

さいたま市の緑地保全
～グリーンインフラの推進～

さいたま市都市局
みどり公園推進部みどり推進課

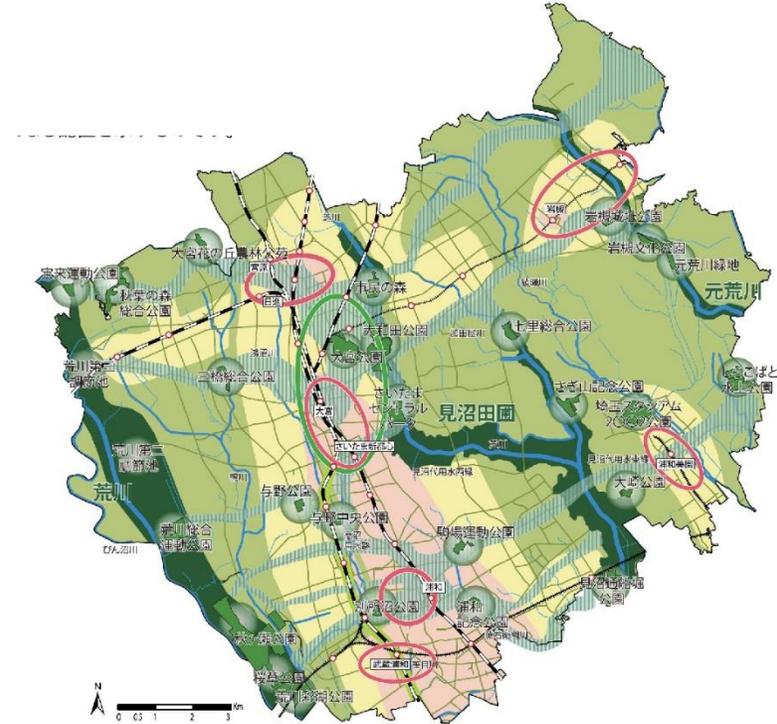
1 さいたま市の緑の将来像

『みどりの豊かさを感じる 快適なまち さいたま』

都市と自然が共存する本市の特性を生かし、暮らしのなかで誰もがみどりとのふれあいを楽しみ、well-beingな日常を送ることのできるまち

＜目指すまちの姿＞

- ・市民や来訪者など、あらゆる人が暮らしの中で、みどりの豊かさを感じながら生活、滞在、活動できる、東日本の中核都市に相応しいまちが形成されています。
- ・みどりが居心地のよい都市生活を支え、安全・安心で健康的に、快適な都市生活が営まれています。
- ・市民、民間事業者、行政など多様な主体がみどりの取組に関心を持ち、互いに連携することで、将来にわたって持続的にみどりのまちづくりが進められています。



2 さいたま市の目指す緑地

Q.そもそも緑地ってどんなもの？

A.樹林地を主体とした良好な自然的環境を形成している土地

さいたま市には特別緑地保全地区をはじめ、約60箇所の緑地が存在

持続可能な緑地

①在来の樹木が生育している

②在来の生物、植物が生息している

③樹木が適切に維持管理されている

④樹木の更新が行われている

⑤地域住民、企業など多様な主体が保全活動に関わっている

⑥緑地の大切さが地域住民に認知されている

⑦予算、人員が確保されている



⇒ ①～⑦を備えた緑地 = 持続可能な緑地 にしたい！

3 現在の緑地の課題・問題点

森を育てる活動

- どの枝をどの程度切り、どの植物を残すのかなど判断できる**専門知識や技術が必要**
- さいたま市みどり愛護会や自治会等のボランティアがその役割を担っているが、近年高齢化により**マンパワーが不足**



緑地保全活動の様子

樹木の適正管理

- 「伸びすぎてしまった高木」や「表面上確認できない枯損木」が強風を受け、**倒木等の被害が増加**
- **ナラ枯れ被害**も拡大しており、伐採等の**費用負担増**
- 伐採後の植樹が十分ではなく、**緑地内の樹木量が減少**



南中丸特別緑地保全地区の倒木被害

3 現在の緑地の課題・問題点

緑地の大切さの認知

- ・公園と比べ、緑地はマイナー（利用者がごく少ない）
- ・緑地の大切さが認知されていない（近隣住民にとっては落ち葉被害などむしろ迷惑施設）
- ・生物や植物をよく知る人など一部だけが大切さを知っている



緑の工作体験による環境教育

使い勝手の向上

- ・傾斜があり、開けたスペースが少ない
- ・アクセスがよくない（駐車スペースがない）
- ・使用の制約がある（火が使えない、夜は使えない）



さいたま国際芸術祭2023パフォーマンスの場としての活用

4 想定される取組内容例

① 社員及び家族による保全活動（下草刈り、落ち葉掻き、植樹等）



② 高所作業車による高木剪定作業



③ 独自技術による樹木調査



④ 周辺住民を巻き込んだイベント実施



⑤ 施設（柵、階段等）の整備



⑥ 活動用具等物品の提供

⑦ 資金の提供